

令和3年度 認定こども園仁賀保評価委員会 会議録

1, 日時 令和4年2月24日(木) 10:00~11:00

2, 会場 当園ひまわり組保育室

3, 会次第

- (1) 挨拶、自己紹介
- (2) 令和3年度保護者アンケート、職員自己評価の結果について
- (3) その他
- (4) 質疑応答、指導助言

4, 出席者(副園長欠席)

佐渡谷 妙子(琴浦) 小野 一郎(琴浦自治会副会長)
大須賀 由美子(PTA会長) 齋藤 亜希子(PTA副会長)
柴田 こずえ(園長)

5, 会議内容

(園長) コロナ禍の園生活も2年目に入り、昨年度よりは加減が分かってきて、保護者数を制限したり、時間で区切ったりしながら行事を運営してきた。当園で感染者が出ないのはひとえに保護者の方々の努力のおかげだと感じる。オミクロン株がすぐそこまで迫ってきていて、休校や休園の話聞く。これまでの感染予防対策に加えて、4, 5歳児のマスク着用、クラス間の交流の中止、食事中のつい立、こまめな検温で37.5℃で保護者へ連絡等をしている。今のところ子どもたちは元気に登園し、年長児は卒園へ向けての製作や活動、卒園式の練習等を頑張っている。状況を踏まえて園内一巡はカットさせていただきたい。

園長より～資料に沿って保護者アンケート、職員自己評価の結果についての説明

- 保護者からはおおむね良い評価をいただいたが、中にはマイナスな評価もあったので、今後の課題にしていく。
- 自己評価の中に記載されている「主体性」とは、子どもが自ら「やりたい!」「遊びたい!」と思える姿のことで、主体性を育てるためにどのようなねらい、環境構成が重要かを念頭に入れて保育している。
- あかるくなかよくがんばるこども…当園の目指す子ども像として位置付けている。
- 人的環境…先生たちの質の向上を目指すために自己評価を毎年取り入れ、職員一人一人

と面談をし、結果を次年度へ生かせるようにしている。

○年々園児数が減少している。当園の特色ある活動の一つ「マーチング」をどう存続していくか？何とか続けていきたいと思っている。

・質疑応答、指導助言

(佐渡谷)

自宅が近所なので、毎日親子で登降園する姿を見るのが楽しみ。毎朝早くから夜遅くまで園に電気がついているのが見える。先生方のご苦勞を察する。自分は子育てサークル「かぎぐるま」に所属していて、母親たちに代わって子守りをしているのだが、2時間が限度でとても疲れるので、1日いっぱい子どもを見ている先生方はすごいと思う。昔は2年保育が主流だったが、今は？時代の流れを感じる。

(小野)

琴浦自治会副会長をしている。サロン事業の企画をしているが、数年園との都合が合わないので、ぜひ園児たちとの交流をしたいと思っている。

自分も孫の世話をしている。小さい子がいると大変だが笑いもたくさん起こる。面白い。先生方の変さはもちろん分かっている。色々な価値観の保護者がいて、しつけを園任せにする方が増えてきているが、やはり幼児期はアナログだと思う。人と人とのつながり、上の子が下の子の面倒を見たり、友だちのできないところを手伝ったり。デジタルも進みその良さはあるが、これが中学生、高校生、社会人となるにつれて、上の世代の人と話す機会が減っていくと感じる。メールでは聞けるのに直接聞けない等。また、自分の孫は何でも1番じゃないと気が済まない子なので、負ける経験や他の人へも配慮できるようになって欲しい。

ホールのストーブ危ないと感じる。柵をつけられないか？

(大須賀)

上の子が小3で下の子が年中組。上の子より下の子の方が負けん気が強い。働いているので、朝から夕方まで園へ預けている。キッズリーはとても楽しみで、参観日の時とは違った姿が見られる。製作の場面など立派に取り組んでいて成長を感じることができる。

(齋藤)

私もアプリが嬉しい。園での様子がとてもよく分かる。朝から夜まで園で見てもらっているが、先生方が皆さん努力してくださり、よく見てくださっている。昨年までバス通園をしていたが、添乗の先生が最後まで目を離さず、手を添えてくださっていた。